

## 〈指導医資格を失効し、再申請する場合の書類記入上の注意〉

### □1. 申請書（書式1）

評価を依頼する3名のうち、直接指導を受けた評議員が1人もいない場合には、**直接指導を受けた上級医からの推薦状を添付ください。**この上級医とは本会認定の指導医ではなく、直接指導を受けた医師を指します。略歴に記載する上級医も同様です。

**※評価を依頼する3名の評議員には、あらかじめ何らかの手段によりご自身で審査の依頼をしてください。**

### □2. 脊椎脊髄手術症例300例取りまとめ表（書式2）

執刀医または第一助手の手術症例数を部位別に記入ください。

### □3. 脊椎脊髄手術症例300例 部位別一覧表（書式3）

「書式3」内のサンプルを参照し部位別に一覧表を作成ください。なお下記の症例は申請不可です。

抜釘、Halo装着、生検、創傷処置、軟部腫瘍切除、処置に準ずる小手術、血腫除去、異物摘出、growing rodの入れ替え、経皮的小手術。なお経皮的小手術とは経皮的髄核摘出術、レーザー椎間板蒸留法、椎間板注入療法や経皮的にPMMAを注入するだけの椎体形成術などを指します。手術件数に経皮的椎弓根スクリューやVEPTRは含めることができます。

### □4. 代表的執刀手術30例一覧表（書式4）

通し番号（1～30）、手術年月、年齢、性別、疾患名、術式、実施施設名、結果（改善、不変、悪化）の順に記載してできるだけ幅広い疾患を挙げてください。300例に含まれる症例も可とします。

### □5. 代表的執刀手術30例 手術記録

4の一覧表に対応する手術記録（コピーでも可）を添付し、**一覧表と照合できるよう通し番号を振ってください。**

手術記録30例は必ず申請者自身の執刀であるとわかるように記載ください。

**患者の氏名／IDなどの個人情報（ただし手術日時は審査に必要なため削除しない）したうえで、各病院形式の手術記録を提出ください。**

### □6. 代表的執刀手術30例 実施施設責任者の証明書（書式5）

4の一覧表にある全ての施設について、施設責任者あるいは所属長の証明を添付ください。

### □7. 業績5編とその一覧表（書式6）

一覧表（下記）に著者、タイトル、巻、雑誌名、年（発表の場合は発表者、演題名、学会名、発表年月、場所）を記入ください。なお、**業績1には、筆頭発表者か筆頭著者の業績を記入ください。**業績2以降は共同演者、共著でも可とします。また、内容を証明するものとして抄録コピー、論文別刷りコピー、講演内容等を提出し、**一覧表と照合できるよう番号を記入ください。**業績は論文や抄録で内容が確認出来るものにしてください。抄録がない教育研修講演や、脊椎外科の内容の乏しい、看護系等の業績は不可です。

### □8. 日本脊椎脊髄病学会学術集会参加証（コピー可）－2回分

日本脊椎脊髄病学会のうち2回の参加証（**氏名の記載があるものに限る。**過去5年以内。認められる会の詳細は要項参照）、または学会マイページの「JSSR 学会参加・単位取得履歴」の学会参加履歴のキャプチャー・スクリーンショット。

参加証を紛失した場合は、下記のいずれかで代用可です。なお参加証の再発行は受けません。

① 座長や学会発表があればその抄録のコピー（共同演者不可）

- ② 学会マイページの「JSSR 学会参加・単位取得履歴」の学会参加履歴または「医療安全対策・感染防止対策・倫理等に関する研修」受講履歴のキャプチャー・スクリーンショット
- ③ 本会学術集会中に開催された日本整形外科学会教育研修講演の受講証明書コピー

**□9. 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医認定証**

・日本整形外科学会の認定証であることを確認してください。

※認定期限が切れていないかを必ず確認してください。

※認定証ではなく、日整会マイページのキャプチャー・スクリーンショットのご提出でも可です。その場合は、必ずご自身の氏名と脊椎脊髄病医の資格をお持ちであることが分かるようにスクリーンショットください。

**□10. 審査料 3 万円の郵便振込み受領書**

**□11.医療安全・感染防止対策・倫理等に関する研修 1 単位取得証明**

学会マイページの「JSSR 学会参加・単位取得履歴」の、指導医イブニングセミナーまたは脊椎脊髄病研修コースの I か II の受講履歴のキャプチャー・スクリーンショットをアップロードしてください。